

# 大分大医学生の

## 地域医療実習

①

大分大学医学部地域医療実習センター(センター長 野口隆之医学部長)は、地域医療を担う人材を育てるために、臨床実習の一環として今年初めて「地域医療



健康保険南海病院の介護老人保健施設「サンビュー南海」で研修する大分大学医学科6年生の森和樹さん(右端の男性)と鍋田祐介さん(左端の男性)

### やりがいや楽しさを実感

## 「大きく成長できる場所」

「この実習をきっかけに、いずれは地域医療に携わってほしい」と期待を寄せている。

実習は▽豊後大野市民病院▽健康保険南海病院▽大分岡病院▽臼杵市医師会立コスモス病院▽津久見市医師会立津久見中央病院▽佐賀関病院▽竹田医師会病院▽大分健生病院の八つの地域中核病院の協力で実施した。

学生は2〜3人のグループになり、地域で生活しながら8日間こわって実習を受けた。院内実習だけでなく、訪問看護に同行して患者の生活の様子まで知り、住民との距離が近い診療所などでも研修した。介護保健施設では入浴や食事の介助なども経験し、地域社会で求められる医療や保健、福祉、介護については大きな成果」と同センター。医師不足に悩む地域の医療機関や行政関係者からは「医師として大きく成長できる場所」と言う。

実習の一環として学生に地域医療の実情を講義した豊後大野市の橋本祐輔市長は「学生たちは、医療本来のありよう、医師に求められる役割、人間的・社会的なつながりを身近に見て、地域で医療に関わる充実感や達成感を感じたのではないかと見ている。南海病院の高倉健副院長

「以前から、数日でもいいので学生の間地域に来てほしいと思っていた。大分学病院で治療を受けている人はこわすか。むしろ地域の病院やクリニックにかかっている人の方が圧倒的に多い。学生たちに、そこでどういう診療がなされているのか、どのような医師やスタッフがいるのかを知ってもらっただけでも有意義なことだ」と今回の実習を評価している。



**ポイント**  
地域医療学センター 大分大学の地域貢献の一環として2010年2月に設置された。内科分野の宮崎英士教授ら4人、外科分野の白石憲男教授ら3人で構成し、大分の地域医療に従事する人材を育成するシステムの構築や「地域医療学」の確立を目指している。